

ユニセフ 子ども ネット ニュース

2002 秋
No.2

unicef
財団法人 日本ユニセフ協会

発行所：ユニセフ子どもネット事務局 財団法人 日本ユニセフ協会 広報室 〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12 ユニセフハウス
 電話：03-5789-2016 ファックス：03-5789-2036 電子メール：jcuinfo@unicef.or.jp

ユニセフ TOPICS

6月19日ワールド・サッカー・デー

すべての子どもたちがサッカーを楽しむ世界にしよう

2001年11月、ユニセフと国際サッカー連盟（FIFA）は、子どもたちのために世界的なパートナーシップを結び、2002 FIFA ワールドカップ™ 期間中の6月19日を、「子どものためのワールド・サッカー・デー」と決めました。

日本では、東京の国立競技場を中心に全国の10都市でJリーグの選手などが参加して、子どものためのサッカーイベントがひらかれました。子どもたちはサッカーを楽しむ一方、「子どもを差別しない」「すべての子どもに教育を」「子どもたちを戦争から守ろう」など、「子どものための10の約束」を子どもたちがアピールするセレモニーもおこなわれました。

世界では、アフガニスタン、バングラデシュ、中国、韓国、チェコ、モザンビーク、パナマ、ポーランド、シエラレオネ、ソマリア、南アフリカ、アメリカ合衆国など多くの国々にて子どもたちがサッカーを楽しむイベントがひらかれました。



ワールド・サッカー・デー、アフガニスタン・カブールのオリンピックスタジアムには、市内2つの子どもサッカーチームのメンバーが集まりました。少年たちは、ブラジルやイングランドカラーのユニフォームを着ています。ユニフォームは大使館や援助機関から寄付されました。

ユニセフの支援を得て、アイルランドのNGO「ゴール」がピッチを修繕し、用具をそろえ、地元のスポンサーの協力と準備を続けてきました。それでも、スタジアムのピッチは、ぼこぼこで、ひかえの選手が待つ日かげもなく、ゴールにはネットがありません。ピッチを示す白線もところどころ消えています。

「ベッカムが最高だよ」ひとりの少年が自信たっぷりに言います。10分後、8歳のロナウドファン、モハメド・シカブから激しいタックルを受けます。速いペースで試合は進み、ボールがピッチをいったりきたりします。観戦にやってきた100人ほどのサポーターがどよめきます。試合は真剣そのものですが、雰囲気はとても友好的です。ファウルはたった3つだけ、審判がカードに手をのばすことは一度もありませんでした。このスタジアムで、タリバン政権による公開処刑がおこなわれていたときから、まだ1年もたっていない。今日、その恐怖の舞台は、チームワークと友情の舞台に生まれ変わりました。スポーツは、ともに生きること、違いがあっても平和的に解決すること、そして競いあうことは必ずしも対立ではないことを学ぶとてもよい方法です。女の子の間ではバレーボールが人気です。スポーツを通じて平和を築くとりくみは、ますます広がっていくでしょう。

アグネス・チャンさんカンボジアを訪問



人身売買から子どもを守りたい

日本ユニセフ協会大使のアグネス・チャンさんが、8月19～25日までカンボジアを訪問し、タイとの国境付近を中心に、売り買いされる子どもたちの実状を視察しました。

昨年12月の「第2回子どもの商業的性的搾取に反対する世界会議」でも、「子どもの人身売買」は大きなテーマでした。売られてしまった子どもたち。かれらの多くが、性的搾取のぎせいになったり、工場に閉じ込められて休むひまもなくひどい仕事をさせられたり、街でものを売りをさせられたりしています。

人身売買にあった子どもたちを保護し、社会で自立して生きていけるようにするためのセンターでアグネスさんがであった12歳の女の子ヴェドさんは、バンコクに売られ、花売りをさせられていたつらい経験を話しながら、一度もほほえむことはありませんでした。アグネスさんは、「こんなひどいことから子どもたちを守りたい」と報告会でうたったえました。

世界各地から



>> アフリカ南部の国々に食糧危機

アフリカ南部の6カ国（ジンバブエ、マラウイ、ザンビア、モザンビーク、レソト、スワジランド）では、干ばつや悪天候のために農作物の収穫がへり、たいへんな食糧難が予想されています。食糧を保管しておく施設がじゅうぶんでなく、2年続いた悪天候のため、貯蔵されていた食糧も底をついています。この地域では、すでに770万人が飢餓の危機にさらされており、その数は来年の3月までに1280万人にまで増えると考えられています。ユニセフをはじめ、さまざまな国連機関などが支援をはじめていますが、食糧を支援するだけでは十分ではなく、栄養、飲み水・衛生状態をよくすること、荒れてしまった農業をふたたび復活させることなど、さまざまな支援が必要とされています。



干ばつで荒れはてたトウモロコシ畑にたたずむ4歳の少年アヤンダ。ジンバブエの首都ハラレから550キロメートル離れたベズ村にくらす。



>> 洪水に悩まされるアジア諸国

今年の夏、ヨーロッパで起こった洪水が注目を集める一方、アジア諸国でも洪水の被害が広がりました。インド、バングラデシュ、ネパールのヒマラヤ山脈のふもとに広がる地域で起こった洪水では、900人近くが亡くなり、250万エーカーものトウモロコシ畑が流されました。この3カ国では6月にモンスーンの雨がふりはじめてから、何度も被害がおこっています。また、中国でも大きな洪水の被害が報告されています。

ベトナムでは、南部のメコン川のデルタ地域で非常に危険なレベルにまで水位があがり、3年連続の大きな洪水が予想されています。ユニセフは、洪水が予想されている地域で、避難や安全のための資料をくばったり、水上診療所をつくる支援をしたりしています。

- ➡ ユニセフトピックス 1
- ➡ 子どもたちの声が届いた！「国連子ども特別総会」に世界の子どもたちが参加 2-3
- ➡ 地図で見る世界の子どもたち 「HIV/エイズを知っていますか？」 4-5
- ➡ ユニセフではたらくこと...！～子どもネットワーカー記者 ユニセフスタッフにインタビュー～ 6-7
- ➡ REPORT&INFORMATION 報告とお知らせ 8